

まうので、短時間に内容が伝達でき、時間の節約になる。

(7) 国や人種の差別なく利用できる。

言語のように、国や人種よっての違いがないので、だれにでも同じように通じる万国共通語ともいえる。

(8) 客観的にとらえることができる。

世の中が激動し、流動的であればあるほど、その動きを客観的にとらえることが必要である。

国勢調査、世界の統計資料、企業の動静、工程の状態など、各種のデータを客観的に表現することが可能である。

(9) 高度な技術を必要とせず、手軽に作成できる。

図表化を行なうには、高度な数学的知識や絵画能力がなくとも、だれでも、簡単に手軽に作図できる。要は、コンパス、定規など若干の道具と、

作り方の知識さえあれば十分である。

(10) 正確に伝えることができる。

棒グラフや折れ線グラフ、時にはヒストグラムや散布図をえがくことによって、内容豊かな情報を正しく伝えることができる。

4. 図画表現法の活用

近年、企業をとりまく環境は厳しい。高度化・多様化する消費者ニーズに合った製品、安全性・信頼性の高い製品、高い付加価値を生ずるような製品を開発し、企業体質を強化していくために、図画表現法を活用した良質な情報の果たす役割は大きいものがある。

以上に述べてきた図画表現法の良さを十分に認識し、積極的な利活用をはかっていただきたい。

(ほそたに・かつや 日本電信電話公社近畿通信局

データ通信本部課長)

特集●プレゼンテーション

東塚弘司●

マルJ ~~ダメJ~~ キャンペーン

わが社では2年前からマルJ運動(事務効率化推進計画—JはJIMU(事務)のJ—)というものを展開しています。狙いは管理・間接部門の体質を改革し、きびしい環境の変化にも即応できる体制を作っていくことです。

この運動の施策そのものは Bottom Up方式、Top Down方式、双方をおりませで実施しております。

そこでこれらを推進するにあたってわれわれが最も留意した点の1つは「このマルJ運動をあくまで楽しく、明るくすすめていく」ということです。そうすることにより元にもどらない、体質そのものの改善・改革に結びついていくと考えました。

そこでこの楽しく明るくすすめるマルJ運動のキャンペーンにマルJ坊やを登場させました。たとえば全従業員に対する Basicな施策である“守ろう! 事務のルールとエチケット”——会議のルール、行先明示のルールや電話訪問のエチケット等、10のルールと4のエチケットを完全に身につけようとする運動——や“1枚 Best運動”——作成する書類は1枚で——等を



マルJ



ダメJ

通して職場でルールやエチケットに反した場合は「これはダメJだ!」と言ったり「ダメJスタンプ」を押して相手に指摘し、また、OKの時は「これはマルJだ!」と言って「マルJスタンプ」を押したりしています。

お互いにフランクにマズイ点を指摘し、良い点を賞めあうということは一般的にムズカシイことですが、このマルJ坊やのおかげで大へん活発にできている次第です。

(とうづか・こうじ 本田技研工業 マルJ計画室)